

模擬授業学習指導案（想定…小学校社会科第5学年）

平成27年8月30日（日）10:25～11:15 指導者 岩坂尚史 於：土木会館

1 単元名 「防災まちづくり・くにづくりを考える」

ねらい	今後起こりうる、津波、地震、土砂災害、洪水などの自然災害について、子どもたちが防災意識を持ち、災害について考え続けるようにするにはどうすればよいか。
-----	--

2 題材について

今回の単元では、資料としては『「防災まちづくり・くにづくり」を考える』学習ワークブックを主な資料として学習を進める。このワークブックは、小学校学習指導要領5年生の内容（1）エ「国土の保全などのための森林資源の働きおよび自然災害の防止」との関わりがあり、学習を進めるにあたって、子どもたちにとって有効な資料となる。

自然災害に対して、国や都道府県などが様々な対策を進めている。その例として、洪水や土砂からまちを守るダム、津波や高潮などから街を守る防潮堤、建物を自身に強くする耐震工事などがある。しかし、自然災害を防ぐ為には、国や県が行っているハード面の対策だけでは不十分である。東日本大震災で、岩手県で一番の死者が出た陸前高田市の市長は「今後また想定外の津波が来る可能性は否定できず、ハード面では、万全の体制を作ることはできないのではないか」と語っている。子どもたちは、自然災害に対して意識が薄く、様々な設備があるから大丈夫だろうと思っているような感も否めない。ハード面で災害を防いでいるという重要性とともに、ハード面に頼らないで何ができるかということを考えさせたい。

そこで、本時では、具体的に、東日本大震災の例を子どもたちに紹介する。国や岩手県や宮城県では明治三陸津波、昭和三陸津波、チリ地震津波などの過去の津波を参考にし、災害の被害を最小限に抑えるように防災対策に力を入れてきたが、2011年3月11日の東日本大震災では、想定していた以上の強い揺れと高い津波を経験し、「未曾有の災害」と呼ばれる結果となった。東日本大震災前に作成していたハザードマップを子どもたちに提示し、自然災害を完璧に防ぐ対策はなく、想定外の被害が起こりうるということと理解させ、子どもたちがどんな行動をとることが大事なのかを考えさせたい。

3 学習指導計画※括弧内は『「防災まちづくり・くにづくり」を考える』学習ワークブックページ数

第1時…我々が自然に対するイメージを出させ、自然の恵み、災害について調べる。（P2～P7）

第2時…災害を減らしている様々な設備や対策（公助）についてグループで調べる。（P12～P15）

第3時…前時で学んだことを生かして、災害に強いまちをつくる疑似体験をする。（P16～P17）

第4時…自然災害を防ぐ設備や対策があること（公助）を再確認し、それ以外にも災害を防ぐにはどうすべきかを考える。（本時）

第5時…設備や対策以外の減災の取り組みを調べ、自助・共助の重要性を考える。（P18～P19）

第6時…来たるべき自然災害について、どういった行動を取ればよいか自分の考えをまとめる。

5 本時について（4時間目／全6時間）

（1）本時のねらい

自然災害は、身近に起こりうるものだということや、想定外の災害が起こりうることがわかり、災害を防ぐためにはどうすべきかを考える。

（2）本時の展開

主な学習活動と予想される子どもの姿	留意点
○前時の復習をする。	・自然災害から被害を減らすための施設をださせ、ワークブック P12,P13 と照らし合わせる。 ・出てきた自然災害の例としてワークブック P4 などと参照する。
○この夏の日本各地で起こった自然災害を例として出し、身近に考えさせる。	
○私たちが住む東京でも実際に自然災害を防ぐ設備があるかを調べる。 →「家の近所だよ！」「そんなに水をためることができるなんて知らなかった！」 ○「東京や日本でも、これだけ十分な対策をやっているのだから、自然災害が来ても大丈夫ですね？」という問いに対して、考える。	・スカイツリーの地下に雨水をためる機能があることをおさえる。 ・状況に応じて、地震や津波などの自然災害についても考える。 ・子どもたちをゆさぶるため、あえてこのような発問を行う。 ・自然災害で怖い思いをした体験談を出させ、東京での災害例を紹介する。
○東日本大震災の岩手県の浸水予想図を調べる。	・想定以上の災害が起こったことを押さえる。
○今日のまとめをする	